

戦術的関心を導く球技の学習過程

—中学2年生 ハンドボールの実践より—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）

氏名 中井克久

今日では、球技における学習課題を「戦術学習」と捉え、且つそれを自ら課題を考える主体的な学びにおいて実現することとされている。しかし現状では、十分に実現されていないことを問題とした。

本研究では、球技における学習課題を子どもたちが主体的に学ぶ「戦術学習」と捉え、自ら課題を考え、戦術的関心を導く学習過程の在り方について実践をもとに検討することを目的とする

本実践では、ハンドボールの授業において、ゲーム中心の学習過程を計画・実践した。この中でゲームの状況を、生徒の振り返りコメントとともに分析した。そこから戦術的関心の高まりや「戦術的気づき」は、ゲーム経験とともに漸進的に学ばれる可能性を考察した。この過程において教師から戦術を指導することや、動きについての具体的な指示をしたことはなく、生徒たちはゲームを通じて戦術的な課題を発見し、相手に応じた課題を意識するようになった。ゲームを中心とした学習過程は「主体的・対話的で深い学び」を実現する一助になるものであると考える。